

もちつき大会で地域のふれあい深まる
高尾自治会でふれあいもちつき大会



おいしいもちをつくぞ



多くの参加者でにぎわった

地域の絆と親睦を深めることを目的に、12月8日、高尾公会堂でふれあい交流もちつき大会が開かれました。

地域住民全員が参加するもちつき大会は、普段顔を合わせることの少ない子どもたちと交流ができ、高齢者は喜んでいきます。

大人も子どもも一緒にもちをつき、4人づきでついたもちは、あんなこまぶしたもののやきなこもちにして食べられ、親睦が深まった一日となりました。

「元気に新年を迎えて」と5色もちを贈る
日野国際交流協会が子どもたちにもちを贈る



たくさんもちをかかえる園児（ひのっこ保育所）

日野国際交流協会（小谷博徳会長）が、12月9日にひのっこ保育所を、12月11日には山村開発センターで行われている子育て支援室をおひさまひろばを訪れ、会員でついた5色のもちを子どもたちに贈りました。

保育所とのかかわりは、平成18年度から黒坂保育所のもちつきを手伝ったことから始まりました。

平成21年度からついたもちを贈るようになり、今年度で5回目になりました。



元気に大きくなってね（おひさまひろば）

渡す前にもちの色を子どもたちに聞くと、みんな大正解。白のほか、ハウレンソウを入れた緑、カボチャを入れた黄色、ニンジンを入れた赤、ムラサキイモの紫です。「もちを食べて元気に年を越してくれることを願っています」と会員は笑顔。

贈られたもちには、保育所ではその日のおやつで可能なもちに、おひさまひろばでも後日、きなこもちにして食べました。



町の特産品を楽しんで

朝市グループがふるさと便発送作業

町外に住む人たちに、日野町の特産品などを届ける『ふるさと便』の発送作業が、12月22日、山村開発センターで行われました。

これはニコニコ朝市グループ（大下恵代表）が26年前に朝市を始めてから続けているもので、今年は全国から167個の申し込みがあったということです。

同センターでは、会員らが明るい笑いを響かせながら一つ一つ丁寧に箱詰め。作業する表情は生

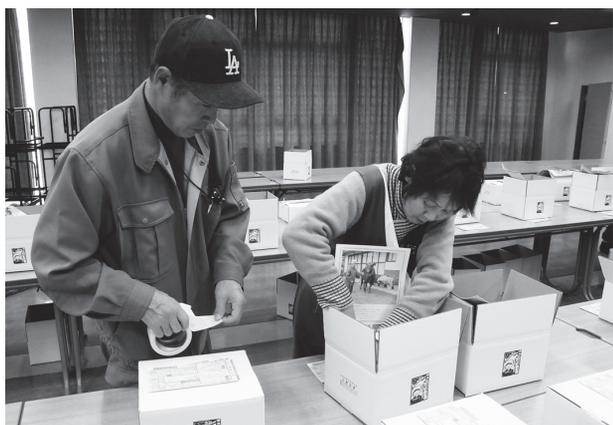


箱ごとに特産品を仕分けする会員

き生きとしていました。

ふるさと便には、きねつきもちや漬物、手作りこんにやく、梅干し、きなこ、特別栽培米コシヒカリなど、材料から加工まですべて日野町内で行われているものばかりで、詰める品数は、要望に応え希望する品物を詰めているとのこと。

トラックに乗せられたたぐさんの箱を見て、会員らは安どの表情を浮かべ送り出しました。



丁寧に箱詰めされていくふるさと便

揺らめく炎が幻想的な雰囲気を醸し出す

黒坂3区自治会が聖神社参道に竹灯籠を点灯

12月31日の大みそかから元旦にかけて、黒坂3区自治会（柴田滋自治会長）が聖神社に手作りの竹灯籠70本を点灯。揺らめく炎に参道がぼおっと照らし出され、幻想的な雰囲気を醸しました。

この取り組みも、地域を元気にしたいと今回で4年目。当日は、大みそかの午後11時ごろから3区の6人がおよそ100杯の参道に次々と点灯して回りました。

星形など、さまざまな模様にくり抜かれた竹灯籠には、ペットボトルを切ったものを貼り付け、風でろうそくの火が消えないように工夫されていました。

火を灯した人は「今年は天気が良いので風や雪などの影響を受けることがなく安心です。すっかり年末年始の風物詩となり、終わると次の年の設置に向け、区民で意見交換をしています」と笑顔。そして「新年を迎えて初詣でにまた来ます」と参道を後にしました。設置された竹灯籠を見ようと多くの人が初詣でに訪れました。



神社境内の周りにも点灯される



ろうそくに火を灯し風よけを取り付ける